

## 第2回歯科医学教育者のための ワークショップ(富士研)報告

山口 泰平

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
健康科学専攻 発生発達成育学講座  
予防歯科学分野

平成23年12月8日から11日の3泊4日で「第2回歯科医学教育者のためのワークショップ」が富士山近郊の静岡県裾野市の富士教育研修所で開催されました。主題として「歯科医学教育における諸問題の解決に向けて」とあり副題では「教育能力の開発 (Faculty development) を企画・運営できる人材の育成」が上げられていました。この研修会は以前は毎年開催されていましたが、諸事情で中断していたのを日本歯科医学教育学会の関係者の御尽力で昨年から再開に至りました。今回は2回目ということで、実施スタッフのお話では前は事実上の初回ということで実施するのが精いっぱいといった感があったが、今回はそれをふまえてきたため、少し余裕を持って対処できたとのことでした。

研修所は市街地からかなり山奥に入ったところで、裾野駅からでも車で2、30分はかかり、バスも1、2時間に1本といったところです。富士裾野というと青木が原樹海などを想像してしまいましたが、この辺りは丘陵で広葉樹の自然林が多く、うっそうとした山奥というイメージではありません。本道から横幅10メートルもあろうかという引き込み道を上っていくと、その彼方に立派な白亜の建物がたたずんでおりました。この段階ですでに身の引き締まる思いがこみ上げてきました。

少々の待ち時間の後、受付を経て指示された部屋に入ると、すでに多くの参加者が着席されておいででした。その部屋には机はなく椅子だけが整然と並んでいました。参加者は全国の私立、国立の歯科大学、歯学部からだけでなく、研修医受け入れ施設として開業医さん8名を含む計42名という規模でした。一通りの主催者側の挨拶の後、部屋の壁に沿って全員が椅子を

移動して円陣になり、隣のひとと2人組になって自己紹介ならぬ他己紹介から始まりました。この研修ではお互いの距離を縮めることが、まず第1の作業で、以下ずっとこの距離感で実施されました。これは研修成果だけではなく、実際の教育現場でも講義、実習を問わず学生と教員の間、学生同士の間での距離を縮めることで教育効果が上がることの実践でありました。

全体のスケジュールは朝7時半からの朝食の後、8時23分スタートで夕食後の講義、ワークショップ(WS)を経て夜9時過ぎの解散まで、びっしりのカリキュラムが組まれていました。全体を通して10の講義、同時並行でWSのグループ作業と、非常にハードな内容でした。WSの基本は8名ないし9名の班に分かれての作業でした。テーマは「歯科教育の問題点を洗い出し、その中で焦点を絞って解決するための教育カリキュラムを立案する」といった内容で、ステップを追って進めていく中で、まず全体集会での簡単な説明があり、各班による討議とまとめを行った後、全体での発表、討論。さらにその後で段階に沿った講義が組まれているといった、非常に計画された内容でありました。また、ところどころで別企画が組まれておりました。その1つが「インシデントプロセス」というもので、学生教育上、問題だった事例を参加者の1人が全体で紹介して、その原因と対策について班での討議の後、再度全体での発表、討論といった流れです。最近の社会情勢を反映して、ゆとり教育の弊害、精神面での不安定といった題材が選ばれました。研修期間を通してこうした流れで進んでいきました。

3日目の朝は希望者だけですが、研修所を出て10分くらいの散歩をして夜明けの赤富士を見に行きました。初日、2日目はあいにくの曇天で、やっと回復したと

ころでした。6時25分出発でしたがそれでも20名程度の人数が集まり久しぶりの外界でした。すでに外は明るく、肌を刺すような空気と凍った下草が出迎えてくれました。100メートルも下ったあたりで角を曲がると貯水池があり、その彼方に少し灰色がかった富士山がたたずんでおりました。5分、10分と経つにつれ頂上から赤みが刺してきて次第に裾にまで到達するのにほんの数分程度の時間でしょうか。そこかしこで記念撮影などが始まり、遅れた朝日が当たり始めて白く輝くまで余韻に浸りながら眺めており、しばしの休息でした。

非常に苦しかった4日間でしたが、振り返ると通常の業務を離れた非日常体験であり、一部の参加者からは一種の癒しだったといった声も聞かれ妙に納得するものもありました。今までも講義、実習を通じて教育

について一応の理解はしていたつもりでしたが、体系的な教育法の研修は初めてで、全てを新鮮に受け入れることができました。また、この4日間をともに過ごした班員のみなさんとは解散後もいい関係を築けそうで、そういった意味でも貴重な体験でした。

平成24年7月に日本歯科医学教育学会総会が岡山で開催されるのに合わせて、昨年度の参加者と合同で同窓会をしようという確認をして三々五々散っていきました。次年度はさらに内容はブラッシュアップされるはずで、行かれる方はさらに有意義な研修が受けられるものと思います。最後に、本研修の実施に際し参加者も大変でしたが、実際には主催者側のご苦勞はその数倍であつたろうと、お察しするとともに感謝する次第です。



平成23年12月10日 研修所屋上にて